

この子らと

第6号平成29年11月

まことの保育



驚きの生命力



ご存知でしたか。和光幼稚園の正門横の親鸞様の築山に青々としたいっぱい葉をつけて堂々とした姿で生きている木があります。

何年も、何十年も生きてきているのか、驚くことに木の途中から樹皮の部分だけを残して空洞になっているのです。

近くを毎日、何度も通るのに空洞を抱えながらも生き続けているその木の存在に気がつきませんでした。

鹿児島聾学校との交流



年中組が鹿児島聾学校と継続的に交流をしています。子どもたちは手話を通してあいさつしたり、玉入れ・綱引きをしたりして、楽しく交流できました。

いろいろな人との交流を通して、人を大切に思う心など体験でしか得られない学びができています。

「どんな人間でも必ず何かをもっている。生きとし生けるもので不思議な力を持たずにこの地上に生きているものはひとつもない、人間の数ほど才能もある」童話作家椋鳩十先生の言葉です。すべての子どもたちはたった一つの生命をせいっぱい輝かせています。

いもほり遠足

夜空に輝く星、水平線にかくれる夕日、海辺の潮だまり、田んぼのどろんこ・・・畑のおいも



かつての子どもたちにとっては日常に体験できることでした。鹿児島市の子どもたちの周りにはビルやマンションなどが立ち並び、自然にふれる機会が少なくなってきました。物質的な豊かさと引き換えに心の豊かさという大切なものが置き去りにされているように思います。



子どもたちは、涼風が流れる高台の畑で、土の感触とともに土の中から顔をだす大きなおいもに歓声をあげながら収穫を心から楽しんでいるようでした。

のっぼのコスモス



和光幼稚園の正門横にせいたかのっぼのコスモスがそびえています。そびえているというのがぴったしの高さです。わたしも初めて見る高いコスモスでびっくりして

高さ計りますと1メートル90センチでした。本園職員の高山常勤教諭が自宅から移植してくれました。

10月21日(土)の預かり保育の一場面



年中組は朝のお参りから公園にでかけました、年長組はハリーポッターになりきり遊びに熱中していました。年少、年少少組は園庭でいっぱい遊んでからおいしい給食でした。「子どもたちのために何ができるか」、教師として思考錯誤しながら取り組まなければならない課題です。土曜日の子どもたちも元気に幼稚園生活を楽しんでいます。

